血液・造血器

科目責任者：三　谷　絹　子（内科学（血液・腫瘍））

Ⅰ．前　　文

近年の国家試験の流れの一つとして，画像を題材の一部として用いた問題の比率の増加があげられます。また，医学領域における検査技術の急速な進歩の結果，検査のデータ解釈に必要とされる知識量も増加の一途を辿っています。当科では画像診断の基礎として血球細胞の形態観察，分子生物学的診断技術の基礎として染色体検査の解釈と遺伝子診断に関する諸検査（PCR, FISH, Southern解析等）の原理と解釈，ならびに表面抗原検査の原理とデータの解釈について実習形式で学んでいただきます。基礎的知識や原理を理解した上で実際の画像やデータの解釈を学んで頂くことにより，より深い理解が得られます。

Ⅱ．受入可能人数

若干名

Ⅲ．担当教員

三　谷　絹　子　内科学（血液・腫瘍）
市　川　　幹　内科学（血液・腫瘍）
佐々木　　光　内科学（血液・腫瘍）
瀬　尾　幸　子　内科学（血液・腫瘍）
中　村　由　香　内科学（血液・腫瘍）

Ⅳ．学習内容

1．血球形態観察；実際に光学顕微鏡を用いて行います。
　実際の骨髄，末梢血塗抹標本を用いた形態観察実習。
　討論形式で代表的血液疾患の所見のプレゼンテーション。
2．染色体検査および遺伝子診断に関する諸検査（PCR, FISH, Southern解析等）
　実際の染色体検査結果（核盤）を用いた染色体の基礎的見方に関する実習。
　遺伝子診断に関する諸検査（PCR, FISH, Southern解析等）の原理，解釈の学習。
3．表面抗原検査（FACS解析）
　実際のFACS解析データを使用した検査原理およびデータの解釈に関する学習。

Ⅴ．学修の到達目標

血球形態の観察能力が向上。
染色体検査，各種遺伝子検査，表面抗原検査の結果を解釈する能力が向上。
上記を通して病態の理解力，診断能力が向上し，成績向上に繋げられる。

Ⅵ．成績評価の方法・基準

実習内容のまとめと自主学習内容に関するレポートの提出。

Ⅶ．使用する教材・資料など

光学顕微鏡，骨髄および末梢血塗抹標本
染色体検査結果（核盤）
遺伝子診断に関する諸検査（PCR, FISH, Southern解析等），FACS解析のデータ

Ⅷ. 質問への対応方法

文書にて質問を受け付けます。その後の具体的対応は，質問内容に応じて検討致します。

Ⅸ. 求められる事前学習，事後学習

事前学習（予習）：

内科学に関する一般的な教科書の該当部分を予め読み，不明な点，更に深く学習したい点等をまとめてくる。必要な時間は特に設けない。

事後学習（復習）：

実習の経過により適宜検討。必要な時間は特に設けない。

Ⅹ. コアカリ記号・番号

D－1－4)，E－3－2)，E－3－5)，F－2－3)，G－3－2)

Ⅺ. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

回答やレポートの内容に応じて，適宜検討する。

Ⅻ. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	